

● **学校法人 d b VERSION:7.202**

当プログラムは、マイクロソフト社のサポート対応終了に伴い、Windows XP・Vista・7 搭載機へのインストールは不可となっています。

◆ 登録・入力

➤ 仕訳入力

- ・ [F3 表示設定] に「消費税：表示する／表示しない」の選択を追加し、消費税欄を非表示にできるようにしました。

◆ 決算

➤ 勘定科目内訳書

- ・ 「②受取手形の内訳書」「⑩借入金及び支払利子の内訳書」において、画面上で「科目行」の追加・表示ができるように対応しました。

◆ その他の改良、修正を行いました。

※詳細は、次ページからの“**学校法人 d b (VERSION:7.202) の変更点**”を参照してください。

❗ **注意**

- 他のICSシステムとマスターのやり取りを行われる場合は、他のICSシステム側も当改正対応プログラムのインストールを行い、バージョンを統一してください。

学校法人 d b (VERSION:7.202) の変更点

改良

※一部画像は、財務法人マスターを元に作成しています。あらかじめご了承ください。

I. 登録・入力

1) 仕訳入力

① [F3 表示設定] に「消費税：表示する／表示しない」の選択を追加し、消費税欄を非表示にできるようにしました。

○通常入力 → F3 表示設定



「消費税：表示しない」に設定した場合、下記図（赤枠）の消費税欄が非表示になります。

金額	税額	消費税	変摘要
4,210,000	311,851	内8軽	
3,030,000	275,454	内10	
3,030,000	275,454	内10	
5,487,690	406,495	内8軽 / 共売	
1,502,000	136,545	内10 / 課売	
108,000	8,000	内8 / 課売	
5,000	500	外10 / 課売	
35,000	3,181	内10 / 課売	
10,000	909	内10 / 課売	
600	54	内10 / 課売	

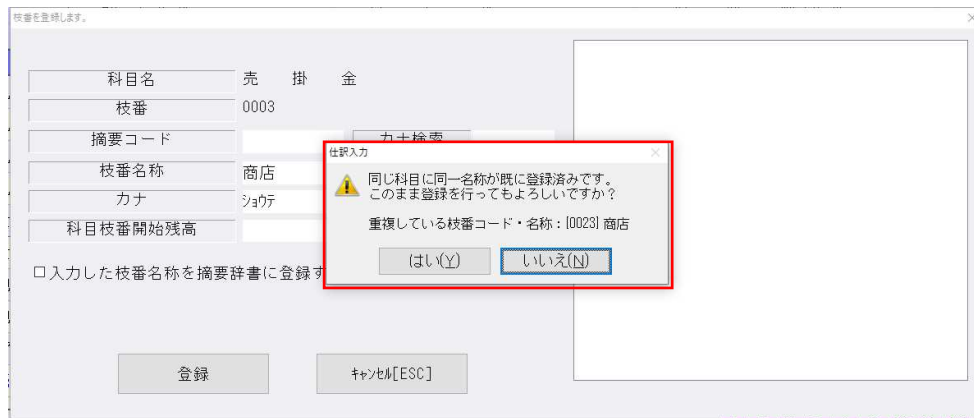
○出納帳入力 → F3 表示設定



入金	出金	税額	消費税	差引残高
3,030,000		275,454	内10	21,188,094
3,030,000		275,454	内10	24,218,094
	5,487,690	406,495	内8軽 / 共売	18,730,404
	1,502,000	136,545	内10 / 課売	17,228,404
	108,000	8,000	内8 / 課売	17,120,404

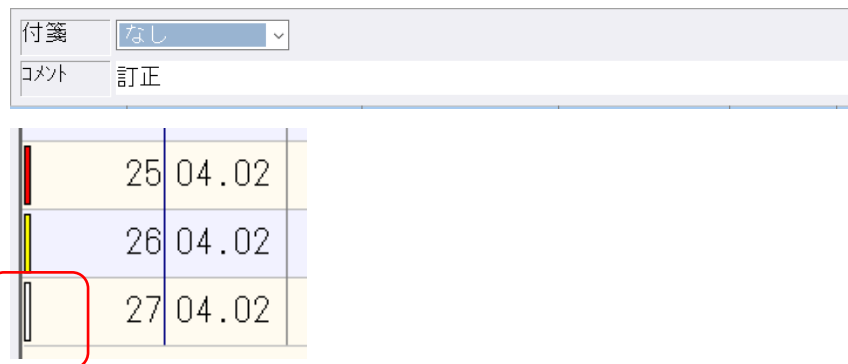
入金	出金	税額	差引残高
3,030,000		275,454	21,188,094
3,030,000		275,454	24,218,094
	5,487,690	406,495	18,730,404
	1,502,000	136,545	17,228,404
	108,000	8,000	17,120,404

- ②科目設定と同じように、枝番登録ダイアログにおいて、同じ摘要コードが登録されているか、同じ名称が登録されている場合、登録ボタンを押したときに警告メッセージを表示するように改良しました。



- ③仕訳入力の付箋・コメント入力で「付箋無し」でコメントだけ入力した時に、通常入力画面の左側の番号欄に何も印が付いていなかったのを、元帳検索と同じように白い四角が表示されるように対応しました。

- 通常入力画面、出納帳入力画面 SEQ27 が付箋：なし、コメントあり



- 伝票入力画面

※付箋なしでコメントを入力している場合、コメント（先頭の2文字）を表示します。

摘要	手形番号	手形期日	変事	付箋	貸
食料品				訂正	売上高 1
物販					売上高 1

- ④税率から自動算出した税額と異なる場合、背景色が変わるように変更しました。

借方	貸方	金額	税額	消費税
現金	売上高 1	3,030,000	275,454	内10
現金	売上高 1	3,030,000	275,453	内10

II. 決算

勘定科目内訳書

1) 受取手形の内訳書

2) 借入金及び支払利息の内訳書

① 「②受取手形の内訳書」「①借入金及び支払利息の内訳書」において、画面上で「科目行」の追加・表示ができるように対応しました。

・従来より印刷帳票は「科目行」を表示していますが、画面上にも「科目行」を表示できるように対応しました。

※上記の機能は、期首が平成 31(2019)年 4 月 1 日以降のマスターに対してのみ対応しています。

期首が平成 31(2019)年 3 月 31 日以前のマスターは（オプション：平成 31 年 4 月 1 日以後終了事業年度分（記載内容の簡素化）の様式を使用する）にチェックを付けていても従来通りの表示です。ソート等画面の「科目行を挿入する」も表示しません。

以下の操作で「科目行」が画面に挿入されます。

- ①編集－ソートの「科目行を挿入する」にチェックを付けて [実行] ボタンを押します。
- ②各科目の先頭行で、編集－特殊行挿入の「科目行」を選択して [挿入] ボタンを押します。

①編集－ソート

ソート

ソート順

第1ソート項目: 科目(番号順) 改頁を行う
科目行を挿入する

第2ソート項目: なし

第3ソート項目: なし

小計

「小計」を自動挿入する
一行でも小計を挿入する
小計行の次に空行を挿入する

小計の名称: 小計

小計の括弧: 【】

改頁、小計の挿入を支店名毎に行う

一括金額

一括金額を行う

1,000,000 円未満一括

詳細設定を使用する
一括金額に0円を含まない

・「改頁を行う」のチェックボックスの下に「科目行を挿入する」のチェックボックスを追加しました。

第1ソート項目に「科目」が選択されている場合に有効です。

チェック ON にして実行した場合、各科目の先頭行に、背景色（薄青）を付けて「科目行」を挿入します。

この場合、小計行には科目名称を付加しません。（例：【小計】）

チェック OFF にして実行した場合、「科目行」は挿入しません。

この場合、小計行には科目名称を付加します。（例：【小計(受取手形)】）

※新規マスターの初期値はチェック OFF です。

②編集－特殊行挿入ダイアログ

一括金額の下に「科目行」の選択を追加しました。
「科目行」を選択して挿入ボタンを押すと、選択した行に科目行を挿入します。
小計行がある場合は、小計行の科目名称を削除して再表示します。（例：【小計(受取手形)】 → 【小計】）

●画面の入力について

（例：「②受取手形の内訳書」）

科目 振出人	振出年月日	支払期日	支払銀行		金額	割引銀行名 及び支店名等	摘要
			名称	支店名			
受取手形							
受取手形							
あいうえお株式会社	平成31.02.03	令和02.03.04	東京中央	丸の内	1,000,000		
受取手形							
かきくけ株式会社	平成31.04.07	令和02.05.08	東京中央	八重洲	200,000		
受取手形							
さしすせそ株式会社	令和01.05.09	令和03.04.08	東京中央	西新宿	30,000		
【小計】					1,230,000		
計					1,746,000		

* 「科目行」について

- 「②受取手形の内訳書」は振出人欄、「⑩借入金及び支払利子の内訳書」は借入先名称(氏名)欄に科目名称を表示します。
科目名称の変更も可能です。（全角 10 文字 2 段まで）
[F6]項目複写、[F9]参照は無効です。
[F7]行削除実行時、保管には移動しません。
- 一括で保管へ移動を実行する際に、科目行より下のデータすべてが保管へ移動の対象になった場合、科目行は削除します。
帳票出力時「金額 0 円データを出力しない」「金額空欄データを出力しない」がチェック ON の状態で、科目行より下のデータすべてが 0 円もしくは空欄の場合は、科目行を出力しません。

* 「小計行」の変更点について

- 科目行があるデータに小計行を挿入した場合、挿入した小計に科目名称は表示しません。
（例：【小計】）
 - 科目行がないデータに小計行を挿入した場合、挿入した小計に科目名称を表示します。
（例：【小計(受取手形)】）
 - 小計行があるデータの科目行を削除した場合、小計行に科目名称を表示します。
（例：【小計(受取手形)】）
- 「②受取手形の内訳書」「⑩借入金及び支払利子の内訳書」では【小計】及び〔中計〕の名称を変更できるようにしています。（全角 13 文字 2 段まで）
ソート実行時や特殊行挿入時の計行の名称は上記の通りですが、変更されている場合はその名称で出力します。

●科目指定ダイアログ

選択	番号	名称	カナ
<input checked="" type="checkbox"/>	1	受取手形	ウケトリ形
<input checked="" type="checkbox"/>	2	割引手形	ワリビ形

- ・「科目毎に改頁を行う」チェックボックスの下に「科目行を自動挿入する」チェックボックスを追加しました。

「科目行を自動挿入する」「小計を自動挿入する」のどちらもチェック ON の場合、小計行の科目名称は出力しません。

●データ インポート・データ エクスポート

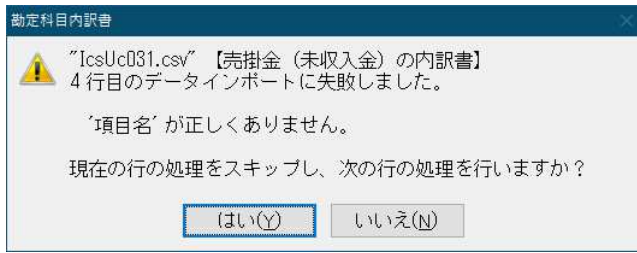
インポート時、項目列が [科目] のデータは科目行としてインポートします。

「②受取手形の内訳書」は、振出人 1 に 10 文字／振出人 2 に 10 文字の計 20 文字

「④借入金及び支払利子の内訳書」は、借入先 1 に 10 文字／借入先 2 に 10 文字の計 20 文字で科目名称を入力してください。

項目列に [科目] のみの場合、「はい」で空白の科目行がインポートします。

「受取手形の内訳書」振出人
「借入金及び支払利子の内訳書」借入先
の項目で、最大文字数を超過している場合はエラーを表示します。



「受取手形の内訳書」「借入金及び支払利子の内訳書」以外の様式の項目列に [科目] があった場合はエラーを表示します。

- ・「②受取手形の内訳書」「⑩借入金及び支払利子の内訳書」では小計名称を変更できるようにしたことに伴い、インポート時、項目列が [小計] の行の文言を編集してインポートできるようにしました。

「②受取手形の内訳書」は、振出人 1 に 13 文字／振出人 2 に 13 文字の計 26 文字

「⑩借入金及び支払利子の内訳書」は、借入先 1 に 13 文字／借入先 2 に 13 文字の計 26 文字で小計名称を入力してください。

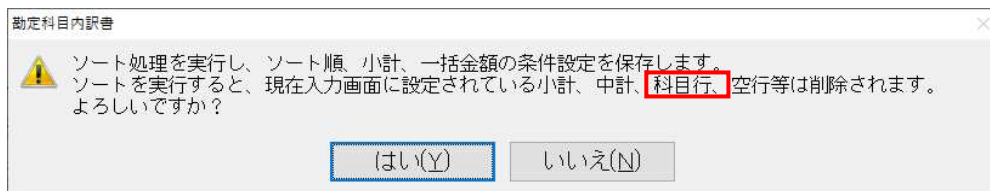
インポート時、項目列に [小計] のみの場合は、科目行ありのときは【小計】、科目行なしのときは【小計（科目名称）】の文言でインポートします。

エクスポート時、「科目行」は項目列に [科目] をセットして科目行および科目名称をエクスポートします。

「小計行」は項目列に [小計] をセットして小計行および小計名称をエクスポートします。

●ソート処理の実行について

- ・実行ボタン押下時のメッセージを下記のとおり変更しました。再度ソート処理を実行すると「科目行」「小計行」などは、特殊行挿入の分も含めて削除後再作成します。「科目行」「小計行」などで名称変更している場合、再作成後は初期名称になります。

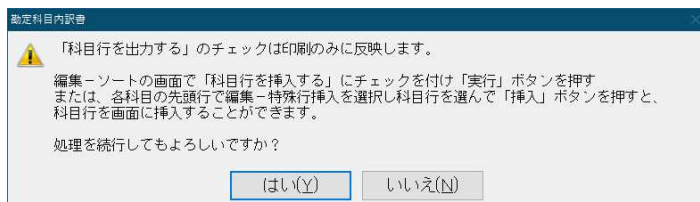


●印刷設定の「科目行を出力する」とソートの「科目行を挿入する」について

- ・従来プログラムでは、印刷設定に「科目行を出力する」のチェックボックスがありますが、今回のプログラムでも、編集-ソートの「科目行を挿入する」とともに、この選択を残しています。

印刷設定の「科目行を出力する」の設定は印刷にのみ反映します。

編集-ソートの「科目行を挿入する」の実行や特殊行挿入の「科目行」挿入で、入力画面に科目行を挿入することができます。



※既存マスターで印刷設定の「科目行を出力する」にチェックが付いている場合でも、今回のプログラムで起動時に、入力画面に科目行を自動挿入する処理は行いません。

ソートの「科目行を挿入する」にも自動でチェックは付きません。

「科目行を挿入する」にチェックを付けて、ソート処理を実行することで入力画面に科目行が挿入されます。

既存マスターで科目指定の「科目指定出力を行う」にチェックが付いている場合は、科目指定ダイアログ内の「科目行を出力する」もチェック ON になります。

ソートの「科目行を挿入する」や特殊行挿入の「科目行」挿入を行った後、入力画面に科目行が存在しているときは、画面上の科目行を優先するため、印刷設定の「科目行を出力する」は選択不可になります。

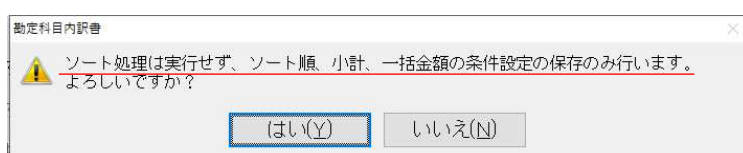
●編集-ソートの【保存】ボタンについて

(補足・・・今回の改良で【保存】の変更はありません。)

- ・印刷で「科目指定出力」を行う際に、「小計を自動挿入する」または「一括金額を行う」にチェックを付けた場合は、編集-ソート内の設定項目を参照しており、科目指定出力時にソート処理を実行しなくても設定内容を反映させられるように設けているものです。

「科目行を挿入する」などソート設定を【保存】で閉じた場合では、画面表示や出力帳表に設定が反映しない項目がありますので、可能な限りソートの【実行】を行ってください。

【保存】を選択したときはソート処理は実行されない旨のメッセージを表示します。



3) 出力全般

- ①印刷設定で「金額0円データを出力しない」「金額空欄データを出力しない」にチェックが付いていると、ソートで「改頁を行う」にチェックを付けてソートした後、画面上で1行上へ・1行下へなど手動でデータの順番を変更してもソート直後の順番で出力されてしまう件に対応しました。

従来より、印刷設定で「金額0円データを出力しない」「金額空欄データを出力しない」にチェックが付いていると、出力前にソートの「改頁を行う」にチェックを付いている様式はソート処理を、「改頁を行う」にチェックが付いていない様式では【小計】の次以外の空行を詰めるという処理を行っています。

今回のプログラムでは、出力前に行っているソート処理を「第1ソート項目でのソート・改頁処理を行う」（第2・第3ソート項目は参照しない）とすることで、手動で並び替えた順番で出力されるようにしました。

- ※上記の機能は、期首が平成31(2019)年4月1日以降のマスターに対してのみ対応しています。期首が平成31(2019)年3月31日以前のマスターは【オプション：平成31年4月1日以後終了事業年度分（記載内容の簡素化）の様式を使用する】にチェックを付けていても従来通りの出力です。

修正

I. 導入・更新

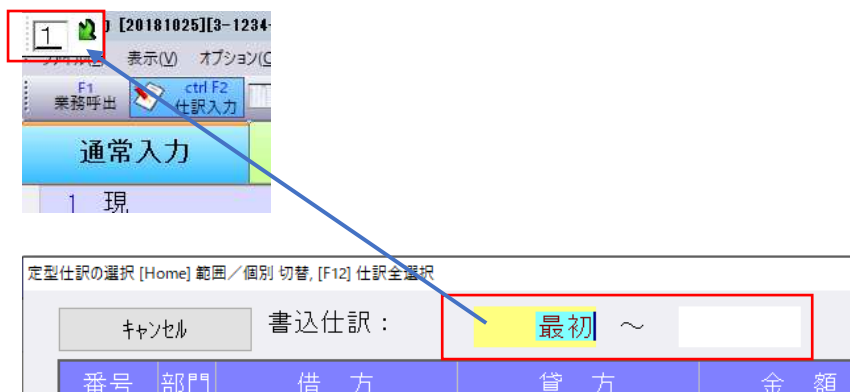
1) 残高合併

- ・「残高合併」で追加科目について同一科目の認識は科目名称の一致が基本になっていますが、内部コードの下2桁目が違っている場合は科目名称が一致しても別科目と認識して内部コードを基に合併するように動作していたため、同一小分類科目内に追加した科目であっても同一科目と認識されないケースがあったのを修正しました。

II. 登録・入力

1) 仕訳入力

- ①通常入力の[Insert]定型仕訳を押下したときの定型仕訳ダイアログにおいて、定型仕訳リストにスクロールバーが出るくらい登録されているグループを選択し、リストのスクロールバーを下げてから、リストの定型仕訳をクリックするとリストの表示が先頭に戻って、指定した番号と異なる仕訳にフォーカスが移動していたのを修正しました。
- ②定型仕訳の範囲指定枠に番号を入力すると、左上に入力ボックスが表示されていたのを修正しました。（IME が起動した状態で全角の数字が入力されるようになっていました。）



III. 決算

1) 勘定科目内訳書

- ①ソート処理の一括金額で正しい金額が集計されないケースがあったのを修正しました。
- ②ソート処理で相手先名称に入力している半角が全角（又は全角が半角）に変わってしまうケースがあったのを修正しました。
[F9 参照] 内に半角・全角を除き名称・所在地が全く同じ文言が登録されていて、データ内に該当の相手先名称があるとソート後、全角又は半角に変わっていました。
なお、既に名称が半角・全角が書き換わったデータについては、お手数ですが修正をお願いします。
また、[F9 参照]の「取引先、金融機関を自動で登録する」のチェックが外れている場合にも半角が全角に変わってしまうことがあったのを合わせて修正しています。

以上